

## 「第1回板橋区消防団運営委員会」会議録

### I 開催日時・場所

令和4年2月7日(月)資料発送  
書面会議にて実施

### II 委員構成

#### 1 委員長

坂本健（区長）

#### 2 委員（敬称略）

かまた悦子（都議会議員）、松田やすまさ（都議会議員）、とくとめ道信（都議会議員）、宮瀬英治（都議会議員）、坂本あずまお（区議会議員）、かいべとも子（区議会副議長）、安井一郎（区議会議員）、小野田みか（区議会議員）、成島ゆかり（区議会議員）、小林おとみ（区議会議員）、長谷川清美（板橋消防署長）、手塚康長（志村消防署長）、大野治彦（板橋消防団長）、山口彦市（志村消防団長）、榎本進（志村防火防災協会会長）

#### 3 事務局

板橋区危機管理部長、地域防災支援課長

### III 議題

#### 諮問事項

「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか」

### IV 送付資料

資料1 板橋区消防団運営委員会会議資料

資料2 板橋区消防団運営委員会書面会議意見提出用紙

## V 会議概要

### 1. 課題①の検討の方向性に対する意見

- ◆ 首都直下地震などの大地震発生の際には、同時多発的な火災や合流火災など大規模な火災発生も危惧される中、消防団の力が必要不可欠であり、活躍が大いに期待されている。方向性にあるように、消防団の現場での力をより一層高めることは重要であると考える。
- ◆ 消防団員は生業を持ち活動しているため、時間的に制約のある中ではあると思うが、消防署と連携して効率的で災害現場で力を発揮できるような実戦的訓練の実施は重要であると考える。
- ◆ 訓練の場として、方面本部の訓練場を消防団としても使用できるよう検討していくべきと考える。
- ◆ 方向性にあるように、訓練実施場所に苦慮しているようであれば、関係機関と連携し検討することも必要と考える。
- ◆ 実践的な現場力の向上、実施場所の確保、消防団員・消防職員への教育という方向性は良い。
- ◆ 「震災時活動マニュアル」を見ると、各々の現場での、かなり専門的な判断力、現場の状況を認識する力が求められている。
- ◆ 大規模災害となれば、消防署や他からの応援がない中で、独自の判断で活動しなければならないことを考えると、日々かなり実践的な訓練が必要になることを実感する。
- ◆ 活動場所の確保については、訓練のためだけではなく、災害時に必要になる空地（瓦礫の一時保管や支援物資等の緊急保管場所、仮設住宅等）の確保を行政に求めることも必要だと考える。
- ◆ 予想が困難な巨大地震をはじめ、災害の実態と災害対応を実感するためにも、デジタル技術を活用して、荒川の氾濫、巨大地震による災害の様相を体験することは不可欠だと考える。
- ◆ こうした体験の上に、家具の転倒予防などの身近な防災活動を呼びかけることも重要だと考える。

#### 1-1. 課題①その他の意見

- ◆ リモート等で夜間の避難訓練等も実施する必要がある。

### 2. 課題②の検討の方向性に対する意見

- ◆ 実動的訓練の不足を補完するためだけでなく、効率的に活動能力を高めるためにも教養システム（eラーニングシステム）の積極的な活用は有効であると考える。
- ◆ AR（拡張現実）やVR（仮想現実）などデジタル技術の導入による、効果的な訓練について検討することも必要と考える。
- ◆ 街頭に設置されているスタンドパイプの活用で成果を上げている町会・自治会もあることから、地域防災力向上のため、消防団と連携して活用を広げる必要がある。
- ◆ 感染防止対策に配慮した実働的体験型訓練の実施、デジタル環境の有効活用

による活動力維持や知識の向上、デジタル環境の充実・拡張、という方向性は良いと考える。

- ◆ 2年連続での消防団操法大会の中止や、合同訓練、防災訓練などが中止になったことによる、消防活動力への影響を懸念する。
- ◆ 技術面だけではなく、消防団員同士の交流、コミュニケーションが不足していくことも心配である。
- ◆ デジタル環境の整備のための財政措置が必要だと考える。
- ◆ 社会機能が全体的に低下していることから、防災訓練の「中止」ではなく「延期」にして、対策を取りながら実施することが重要である。

### 2-1. 課題②その他の意見

- ◆ 日常的に個人の防災意識を高めることが重要である。

### 3. 課題③の検討の方向性に対する意見

- ◆ 若い消防団員の加入促進に関しては、定着のため、地元区市町村と連携して、地域に住み続けられる支援も検討をする必要があると考える。
- ◆ 消防団員の拡大・入団促進のため、「区報」、「消防団ニュース」などで活動の重要性について、特別キャンペーンの実施、様々なイベントで消防団活動の魅力や存在意義を普及することも重要である。
- ◆ 募集広報の充実・強化、大規模災害時のための人員確保、若い世代・女性・学生の団員確保と組織の活性化、という方向性は良いと考える。
- ◆ 職責の重要性からみて、報酬が低いと考える。
- ◆ チラシを見て、団員になろうと名乗りを上げる人はどれくらいいるのか疑問である。
- ◆ 地域の自営業の方に頼らざるを得ない状況で、商店街や中小業者が減っていく中では、そうしたところに頼るのも限界がある。
- ◆ 勤め人が消防団活動に参加するのは、やはりハードルが高く、その辺をどう埋めていくのかが課題ではないか。
- ◆ 各地域センター等を活用し、積極的に募集を実施してほしい。
- ◆ 学校等と連携し、若年層のPTA等に周知し、募集する

### 3-1. 課題③その他の意見

- ◆ SNS等での発信が重要である。

### 4. 課題④の検討の方向性に対する意見

- ◆ 消防団員の平均年齢の上昇や震災時の長時間の消火活動を考慮すると、方向性のとおり、消防団員の負担の軽減が図られる消火資機材を検討することも必要と考える。
- ◆ 地震や火災、風水害などの際、住民の命と安全を守るために活躍する重要な消防団活動の実状や訓練を、大学生をはじめとする学生に実際の訓練の様子を紹介することや、動画による紹介も重要と考える。

#### 4-1. 課題④その他の意見

- ◆ 制服が、体に合っていない団員を見かけるため、機能的側面から課題があるのであれば、改善が必要である。
- ◆ 資機材の整備・強化の望ましいが、人材の確保が重要であることから、若い人材の入団を希望する。

#### 5. 全般に対する意見等について

- ◆ 消防署・消防団関係者を中心にして、各地域、各方面、団体・組織での自主防災活動の拡大・強化が重要である。

#### VI 今後の予定について

今回お寄せいただいた意見を踏まえ、答申案として取りまとめ、次回の委員会にてご検討いただく。

会議の開催方式については、今後の新型コロナウイルス感染症の流行状況を注視しながら決定する。

#### VII 所管課

板橋区危機管理部地域防災支援課